

令和3年3月24日

文部科学省初等中等教育局
教科書課長 神山 弘 殿

「新しい歴史教科書をつくる会」広島県支部
支部長 長谷川真美

中学校校歴史教科書から「従軍慰安婦」の記述を削除して下さい

23年前の「新しい歴史教科書をつくる会」（以下「つくる会」）の運動は、中学校歴史教科書の「慰安婦」関連記述を放置することは、精神的亡国につながるという危機感から始まりました。私たちは日本国民としてこの問題に当初から関心を抱き、実際にありもしなかった「従軍慰安婦」なる忌わしい用語を、日本の子供たちを育てる歴史教科書から排除するべきと考え、粘り強く世論に訴え続けて参りました。幸い「つくる会」の懸命な努力と、これに賛同する広範な国民の支援のもと、平成21年度には全教科書から「従軍慰安婦」の記述が完全に消える結果となりました。

ところが令和1年度の教科書検定において、山川出版社の中学校歴史教科書に「従軍慰安婦」の記述が復活しました。私たちは心底驚き、貴課に対して強い疑念を覚えました。周知の通り「従軍慰安婦」という用語そのものが後世の捏造語であり、旧日本軍に関わる「強制連行」も「性奴隷」も全く無かったというのが日本政府の正式見解です。更には「従軍慰安婦」を長年にわたり報道し続けてきた朝日新聞さえもこれが誤報であったと認め、過去の記事を取り消しました。すなわち「従軍慰安婦」は、学界でも世間でも既に否定され尽した問題です。

令和1年度の教科書検定において、貴課は卑劣な言いがかりをつけて「つくる会」が背景にある自由社の歴史教科書を不合格とし、問題だらけの「学び舎」版を合格させ、あまつさえ政府の見解に反する山川出版の「従軍慰安婦」復活を容認しました…一体文科省はどうなってしまったのでしょうか。わが国の歴史と伝統文化を大切にし、その誇りと国益を守る国民を育てるのが文部科学省の仕事ではありませんか。貴省のおやりになったことは、自身のなすべき義務に背き、国民の厳粛な負託を根底から裏切る売国行為に他なりません。速やかに山川出版社に訂正を求め、この教科書が生徒の手に渡る前に然るべき措置を講じることを強く求めます。

事は単なる教科書の問題に止まりません。国家の名誉と尊厳がかかっているのです。もしもこのような重大な誤ちを放置した場合、必ずや心ある国民多数の強い糾弾を受け、貴職はもとより局長、大臣の責任問題にまで発展するであろうことを警告します。 以上